

5

# 磐田 同窓会 だより

第 5 号

昭和59年8月19日

静岡県立磐田南高等学校同窓会

印刷 総合印刷(株)大進堂

ご挨拶



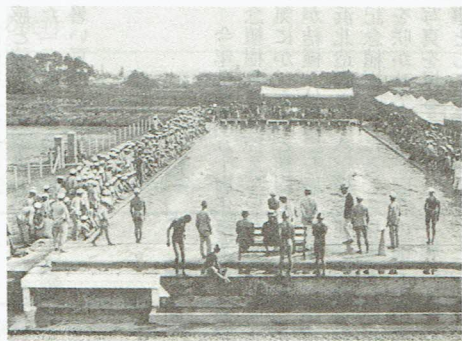
校長 西ヶ谷 免志雄

同窓会の皆様方におかれましては益々ご清栄のことと拝察し、お慶び申し上げます。私、今春はからずも前鈴木不二夫校長の後任として発令され、県教委事務局総務課長から赴任いたしました。ふつつか者ですがどうかよろしく願います。

ご案内のように、昨年度皆様方同窓会の拠点ともいふべき「はぐま会館」(生活館)が完成し、母校創立六十周年記念に見事な花を添えてくださいました。これはひとえに同窓会学校後援会等皆様方のご支援のおかげでありまして、まさに今一万人を越える本校同窓生の底力と、すさまじいエネルギーを見せつけられた思いであります。

真剣至誠、質実剛健、文武両道を校是校風とし、何事も一所懸命やります。これが本校生徒職員の伝統であります。母校は今県内屈指の進学校として躍進を続ける一方、県スポーツテストにおいてここ数年連続して男女とも優秀最優秀校となつております。また部活動につきましても陸上競技をはじめ、それぞれ好成績をおさめています。

このような立派な高校に勤務できることは、私にとって無上の光栄であり、微力ではありますが「磐南」



のさらなる発展に向かって全力投球する所存であります。何とぞご叱声、ご鳳声のほどお願いいたします。最後に、本校同窓会の一層の充実発展と会員諸兄弟のご多幸を心から祈念して、私のご挨拶といたします。

## 心のひずみ

見中第八回生

同窓会会長 川 嶋 辰 男

平和な世の中になり、豊かな生活を謳歌している現在にありながら、なぜか日本人に心のひずみを感じられる。何事においても素直に物を考えることに拒否反応をもっているようだ。最近、街の交通ラッシュにしても自家用車の規制の案が出て、街の道路が狭いからで行政が悪い、せに吾々に責任をかかせるとは何事だ、と自分の住む地域にすら協力しない。まして公共の場所等は遠慮会釈ない。

駅近くの自転車の放置等も其の僅かな一例である。其の反面他人に対する批判に至っては寛容の心を失い辛辣である。エネルギー問題にしても石油資源の無い日本は如何に対処して行くか。石油備蓄建設には基地反対のお先棒にマスコミが騒ぎ、火力発電には公害を呼び況して原子力発電ともなれば核燃料反対一本槍で民衆を扇動する一部の日本攪乱分子に対する批判すらしようとせず将来を考えず迎合する人の多いこともどこか心のひずみを感じられる。

狭い日本であるから一部地域には多少の不満はあるであろうが、これは国家で補償し百年の大計のため、限らない日本の発展と国民の幸せのため、現代の心のひずみから目覚めさせるのがマスコミの務めではないだろうかと思うことは私一人ばかりではないと思いますがいかがでしょうか。

## 同窓会への思い出と今後の課題

幹事 池 谷 幸 平

昨年は、永年の念願であった「はぐま会館」が完成し、創立六十周年記念式典も盛大に挙行されましたが、この記念すべき年に母校を最後に定年退職する幸運に恵まれたことを嬉しく思っています。六〇年の歴史と伝統の上に母校と同窓会が今後益々発展されんことを祈るとともにご厚情を寄せて下さった皆様方に厚く御礼を申し上げます。思えば、私が校内幹事になった昭和

四十四年当時は、一般会計二〇万円と別途積立金八〇万円(四〇周年募金)の貧弱さで、会務費以外の予算はありませんでした。そこで、当時の会長石川博敏さんと役員の方々と相談し、収入増をはかる資金計画を立てながら事業の拡大を進めました。当初の中期目標は、一般会計一〇〇〇万円・別途積立金三〇〇〇万円の合計三、〇〇〇万円でした。これも昭和六〇年度中には何とか達成できそうに思います。また、当時の総会出席者は、三〇人前後で若い人達の出席はありませんでした。そこで高一回評議員の龍泉さん(現副会長)のご協力を得て、昭和四十五年同窓会の運営を卒業一〇周年記念事業として高一回生の皆さんにお願いし、以後は当番制で行うことになりました。現在は男女あわせて四〇〇人ぐらい出席し盛会になって来ましたが。

今後の課題の第一は、収入増に見合った各種の事業計画が考えられますが、会員参加の実行委員会制度を導入して行くことが有効かと思えます。第二は、年次毎の活動を盛んにすることですが、資金が無ければ活動も出来ないから、年次会費を徴収し、資金を確保することが必要です。最低中学で一五万円・高校で三〇万円はどうでしょう。一〇・二〇・三〇・四〇・五〇周年記念の事業費と合わせて集金するのが一番よいと思えます。若い年次で会費が徴収しにくいようでしたら規約で定める方法も考えられます。最後に、同窓会の発展のために皆様方と共に尽力していくことを誓い、意をつくせませんが筆を置きます。

# 思い出

見中第八回生  
神谷 芳男

天にスパイ衛星、地に東海地震、何が来ようとこの磐田は我が郷土であり、母校見付中学校もここにある。昭和四年の入学である。古き良き時代等と言われるが、この年は奇しくもウォール街の株の大暴落である。昭和泰平ムードも束の間社会不安と化し、遂には第二次世界大戦の敗北に連なる。汚れるとテカテカ光る小倉の上下、白のゲートル、肩掛のズック靴は尾崎校長の「勤労作業により質実剛健……」の土方中精神と五大強国日本の将来を担う少年の象徴であったと思う。生徒数も一五〇人と少なかったたので、二二年時は真剣そのもので、真冬の素足も何のそのであった。とは言っても、三、四年の猛者がラッパズボンに鞆の襷を延ばして闊歩し、駄菓子屋に巣くっていると、けなるくもあり怖くもあった。近年女高生がスカートを引摺り喫茶店に屯しているのを見ると妙な気持だ。

ルンペン、生命線、満州事変等々、世情は日々緊迫度を増す。私等は各々の人世觀処世道の形成に迫られた。これらを教導下さったのがその紳名も懐しい、今は殆ど亡き先生方である。英語のピー高松、シーザー小林、蒸気の木村、数学の鼻下地田エツ点

Pの宝知戸各先生である。国漢は伊藤キリン高柳正ちゃん級監の鈴木デコ先生が居られた。地歴は原沢張作霖とライオン田中両先生である。立派な同窓生を輩出させた諸先生の訓育の妙を得たのか、我が八回生にはロマンズも多い。女高生に綱引きされたI君、特技が彼女を窮地に追ったM君、久保川を隅田川の舞台にしたS君等。笑って御免なさい。



南高第九回生  
小須賀 睦子

私共第九回卒業生は、例年より何故か若干少なく総数二三七名である。昭和二十九年、各中学より進学した三十名の女子は、各母校の制服を着用していたので、セーラー服が主とはいえ、ラインが二本、三本、リボン(ネクタイ)は赤、紺、白とまちまちである。男子向けのトイレや更衣室が不便なのは止むをえず辛棒するが、せめて制服を我々の手で決め

よう、と自然発生したのが「女子制服決定委員会」であった。あれから三十年、一本線のすっきりした制服姿は年々増えて、南高女子生徒としての誇り、自覚、晴れがましさと伸びやかささえ伺える。時流れ、同窓会として初の女子副会長なる席が生まれることとなった。同窓会に対する関心が、年代層により大きく異なることは当然の成り行きであるが、偶々、地元に住居する九回生として、初代の大役を担うこととなり、大した活動もないままに総会に女子出席者を増加させたいという当初の目的は定着して年々盛会となる。(同窓会便り、創刊号より)

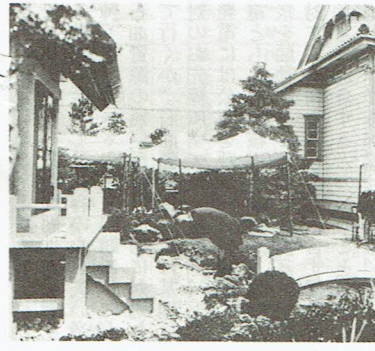
対象範囲の広い同窓会を魅力あるものとするため、重要なのは会を支える力であるが、動けぬ人が名を連ねても仕方ないし、善意ある人に押しつけ、ほお破りするもよくないし、女性という立場上、充分検討の余地もある。辞任後、母校に対する新しい連帯感と誇りを再認識しつつ、与えられた「二度の機会」に反省、回顧する暑夏である。

見中第九回生  
松下 鍊司

今年卒業五十周年事業として記念植樹事業が控えていた。早い中から気にかけて有志と植樹につき検討したが結核「八重桜」を植えることに決定。浜北造園より八重桜を運び四月上旬記念植樹をしたところ見事美しい花を咲かせてくれ一同花の前での記念写真を撮ることにした。続いての行事として慰霊祭を催すことにした。

卒業当時百二十三名であった同級生もあのいまわしい戦禍に戦線に於いて壮烈な戦死を、はた又異國の地に病魔に倒れ、且つ若くして他界された朋友四十七名の方々の慰霊祭を府八幡宮に於いて神式により級友相集い恩師藤田平三先生のお越しを願ひ当七月二十二日の日曜日に府八幡宮の社殿に於いて厳肅に挙行することが出来ました。寺田宮司さんの神詞の中に四十七名の故人の旧友のみ名が読み上げられる度に在りし日の面影が眼のあたりに彷彿とし本殿の中は九回生の見中時代の同窓会のムードが漂い、炎暑の中の幽厳な供養祭であった。宮司さんのお話しをうけたまわり五十年前と何の変哲もない自然、植物採集に歩いた小径、山門の由緒ある古い時代の説明に、五十年前に返り、しばし暑さを忘れた一時であった。今後の友情と健康を誓い合い母校と恩師同窓生の益々の発展を祈願し、五十年懐古の所感の一端といたします。

生徒会の予算案作成に当たり、執行部で原案を作ることになり、放課後始めた会議が夜に入り、深更に及んで、遂に徹夜となってしまった朝のことなのである。夕食をどう済ませたのか記憶はまるでないが、それぞれの部から提出された要求を基にあれこれと議論する内に夜半に至り、顧問を下さっていた井上先生も宿直室へさがられた。その後も話し合いは続き、生物教室の大きな机をベッドがわりにしつつ、予算を案分していたのである。



「おうい、飯にしないか。」金を重そうに両手で持って井上先生が入ってきた。その姿の異様さを見て、みんなで爆笑したのだが、笑いながら「もう朝か」とびっくりしたことを思い出す。

生徒会の予算案作成に当たり、執行部で原案を作ることになり、放課後始めた会議が夜に入り、深更に及んで、遂に徹夜となってしまった朝のことなのである。夕食をどう済ませたのか記憶はまるでないが、それぞれの部から提出された要求を基にあれこれと議論する内に夜半に至り、顧問を下さっていた井上先生も宿直室へさがられた。その後も話し合いは続き、生物教室の大きな机をベッドがわりにしつつ、予算を案分していたのである。

生徒会役員の主な仕事は、予算編成であった。それだけに私どもは真剣であったし、全校代議員会でも、予算審議の折にはかなり激論が交わされたものであった。会議後、部の代表から呼び出しがかかり、険悪な雰囲気の中で議論したことさえあった。

幸いにも、私は豊かな高校生活を送らせていただいた。これは、数多い思い出の一面面である。校則による厳しさ・学問することの苦痛は、当然伴っていたけれども、それでもかなりの自由さが認められており、私どもの三ヶ年間は、それぞれに充実し、意欲を持った活力に満ちたものであったと思う。

南高第八回生  
鈴木 宗直

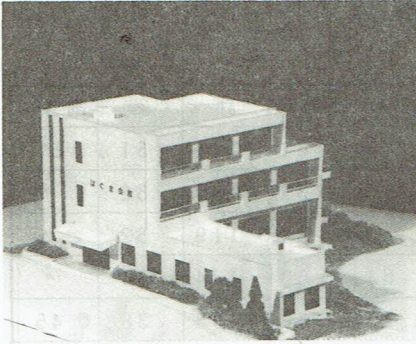
# 募金目標達成

10月22日、はぐま会館(生活館) 同窓会館、水泳記念館)落成式挙  
行

会館建設は、諸般の事情により十年越しの事業となりましたが、昨年十月落成いたしました。以来、生徒のクラブ活動・合宿・各種の研修会および同窓会の会議等にフルに利用されています。これも先輩諸氏のご協力の賜と厚く御礼申し上げます。個々に礼状を差上げるべきところ礼を失し深くお詫び申し上げます。募金状況および決算書を改めて添えましたのでご覧下さい。

## 同窓会の業務分担 を決め活動開始

会員へのサービス向上をめざし、業務分担を決めて効率的な運営をはかりたいと思っております。各年次に於いても即応態勢づくりを望みます。会員と直接に結びついた年次役員の活動如何によりその成果が決まると思っています。



## 同窓会の役務分担表

S. 59. 3. 20

役務	本 部		校 内		備 考
	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	
会 長	川 嶋				
総 務	松 下		鷹 野	寺 田	年間計画の作成・予算の計画・活動の総括
組 織	龍 泉	山 内	鈴木秋	求	年次役員の確認・年次活動助成
広 報	鈴 木	村 松	伊 藤	大 橋	年会報の発行
文 化	高 橋		川 嶋		講演会・スポーツ・展示会等の事業への助成
庶 務			高 塚	飯 田	文書の発送と受付・記録書類の保存
会 計			中 村		一般会計の執行と終身会費の管理

### ●記念事業実行委員会

10周年会	高兼 <sup>25</sup> 回子	藤 田	大 橋		新役員組織の確立・年次運営資金の確保
20周年会	高寺 <sup>15</sup> 回田	鈴 木	山 下		総会の企画立案と運営・年次運営資金の確保
30周年会	高 <sup>6</sup> 回橋	加 藤	鈴木晃		年次運営資金の確保と慰霊祭
40周年会	中水 <sup>17</sup> 回野		鷹 野		年次運営資金の確保と本部事業への資金援助
50周年会	中松 <sup>9</sup> 回下				祝賀・植樹・年次運営資金の確保

### ●名簿発行委員会

企 画	} 鈴 木	} 池 谷			内容・外観(色・型・質)・価格・部数・配布方法など全般にわたる事項の総括
広 告			鷹 野	中 村	希望者の確認・見本(3種)の選定と配布および依頼・掲載位置の決定・集金方法の決定など。
庶 務・はがき			鈴木正	伊 藤 藤 嶋	受付・年次別分類・年次役員への配達
” 原 稿		} 年 次 員	鈴木秋	鈴木晃	校歌・沿革・歴代校長・生徒の現況・卒業生数・進路・現職員・旧職員・会則・役員名簿など
” 調 査			堀 口	松 島	会員・旧職員の住所・勤務地・近況など
” 記 録			鈴木義		企画から発行までの記録
” 会 計			松 島		名簿の特別会計を執行

※その他、文化活動等は後援または必要に応じ実行委員会を設け推進する。

# 創立50・60周年記念事業募金集計表

S.59. 4. 1

年次	会員数	47年	57年	計	%	割当%	年次	会員数	47年	57年	計	%	割当%
見中1	50	48	2	50	100	70	南高7	237	60	61	121	51	50
2	38	37	1	38	100	"	8	249	98	32	130	52	"
3	80	61	7	68	85	"	9	231	65	54	119	52	"
4	68	42	7	49	72	"	10	248	84	50	134	54	"
5	87	65	5	70	80	"	11	269	53	50	103	38	45
6	87	59	7	66	76	"	12	249	54	69	123	49	"
7	93	61	6	67	72	"	13	252	67	42	109	43	"
8	85	38	24	62	73	"	14	266	81	26	107	40	"
9	76	52	9	61	80	"	15	268	50	44	94	35	"
10	66	41	11	52	79	"	16	245	35	28	63	26	40
11	86	61	14	75	87	65	17	273	46	26	72	26	"
12	64	38	8	46	72	"	18	361	70	32	102	28	"
13	68	50	5	55	81	"	19	377	117	27	144	38	"
14	92	54	8	62	67	"	20	372	109	24	133	36	"
15	90	51	20	71	79	"	21	344	109	24	133	39	35
16	106	54	10	64	60	60	22	350	137	38	175	50	"
17	111	55	14	69	62	"	23	343	154	14	168	49	"
18	120	69	14	83	69	"	24	330	—	76	76	23	"
19	126	42	36	78	62	"	25	318	—	60	60	19	"
20	133	69	15	84	63	"	26	326	—	69	69	21	30
21	137	81	21	102	74	"	27	317	—	72	72	23	"
南高1	198	106	20	126	64	55	28	314	—	109	109	35	"
2	178	71	30	101	57	"	29	360	—	107	107	30	"
3	200	85	40	125	63	"	30	359	—	156	156	43	—
4	284	100	29	129	45	"	31	360	—	161	161	45	—
5	220	114	18	132	60	"	32	360	—	181	181	50	—
6	233	111	11	121	52	50	計		3,103	2,024	5,127		

## 50周年記念事業募金決算

収入 13,572,662 円  
 支出 1,168,020 円  
 残金 12,404,642 円

※10,000,000円……建設資金として寄付  
 2,404,642円……同窓会会計へ納入

### 特別寄付

10万円 石川博敏(4)・神谷文吉(8)  
 5万円 高橋秀男(1)・山下 貢(1)・匂阪勝藏(2)・  
 荻野義次(3)・山内克巳(3)・青島周二(3)・  
 伊藤英一郎(5)  
 3万円 神谷英雄(4)・市川玉樹(17)・伊藤 武(17)・  
 石川守也(高1)  
 2万円 高橋達也(14)・飯田英一(高2)・江間金作(高5)

## 60周年記念事業募金決算

収入 16,586,073 円  
 支出 1,473,339 円  
 残金 15,112,734 円

※15,000,000円……建設資金として寄付  
 112,734円……同窓会会計へ納入

### 特別寄付

30万円 石川建設・磐田信用金庫  
 10万円 前島電工・大進堂印刷・シイキ写真館  
 5万円 大竹節二(6)・松下鍊司(9)・塩谷一夫(11)・  
 大橋 淳(21)・鈴木康司(高7)・高6回一同  
 藤田直樹(高10)・鈴木良子(客員)

見中第十八回生

高田 要 三

当時の見中は別名「土方中」と呼ばれていた。学問・知識よりも人間造りを重視し、それも体で覚えよ、という精神で年中土方ばかりさせられていた。勉強のきらいな若者にとつては好都合であったかも知れない。校舎は木造平屋建てで、教室・廊下の拭き掃除は生徒の日課となっており、真冬でも校内での靴下は厳禁。素足である。冬つめたかったことは今でも体で覚えている。今の学校教育では到底考えられないことであるが、今になって思えば、あれが人間造りの基礎になったのかもしれない。

漢文のY先生は剣道の先生でもあった。教室に竹刀を持つての授業である。居眠りでもしようものなら、竹刀の切り返しである。漢文の勉強はできなくてもそれ程ではなかったが、態度が悪かったりすると、きびしい制裁が落ちたものである。

先輩にオリンピックの水泳選手の牧野、寺田の両先輩がおり、水泳の見中というイメージの強い時代でもあり、夏の水泳訓練は誠にきびしいものがあった。入学一年の夏はカナヅチの生徒にとつてはつらい夏休みである。カナヅチであろうが何であろうが、恐い上級生がプールにつき落とし、泳げるまで何時間でも水につつまれる。また、高さ五メートルの飛込台からの飛び込みも全員に

強制される。順番に飛込台に立って、下を見て身ぶるういた途端に上級生に後ろから突き落とされる。現在は某有名大学の教授であるO氏が、あやまってプールの縁に手をうちつけながら大問題をなすことも思い出す。今なら大問題となることばかりである。また四年生の秋、見付裸祭りの夜、同級生が大挙して某先生への集団行動も思い出の一つである。

現在検察庁にいるO氏は、残念ながら見中と一緒に卒業できず、某私立中学に転校したが、その学校からの始めての海兵入学者となった頭の非常によい男であった。

学問、知識の思い出よりも、今の学校教育ではとうてい考えられないことばかりであった。

慰 霊 祭

南高第六回生

高橋 廣 治

終戦以来、三十年の歳月を経ると同窓会の慰霊祭も、戦没者慰霊の強



いアピールが希薄となり、当初、意図したものとは、次第にニュアンスを異にしてきているのやむを得ない様に思われます。

七名の物故同級生の霊を御遺族と共に追悼する。こうした計画のもとに、昨年より再々の会合を重ね準備に入りましたが、御遺族の中にはかえって気持をそこなう方もいらっしゃるのでは?と、いくばくかの懸念も致しましたが、橋口元校長先生の奥様をはじめ、御母堂と二人では非にという奥様や、はるばる千葉県から来塾下さる方等、全御遺族が気持よく御参列を戴ける返事を得てホッといたしました。

偶々、七名の物故同級生の中で、仏教が三名、創価学会が一名、神落成したばかりの「はぐま会館」に於て、無宗派で献花をもって行うことにいたしました。

また「はぐま会館」で慰霊祭を行うに当り、川嶋同窓会長に揮毫をお願いして白木の大型慰霊牌を作製いたしました。

卒業十年会を開いて

南高第二十四回生

伊藤 律 夫

去る三月十一日、高校二十四回(昭



和四十七)卒業生の「十年会」が市内「平安閣」で行われた。八十九名の出席者は、恩師の鈴木勝良先生、柴田和洋先生、大場貞男先生、小林義直先生、亀山雅司先生をお迎えし、旧H.R.ごとにテーブルに着いた。校旗入場、校歌斉唱、役員挨拶の後、H.R.ごとにステージに並び、ひとりひとり自己紹介。顔を見ただけでは思い出せなかった人も、声や話し方を聞いていううちに、はつきりと昔の学生服姿、セーラー服姿が蘇ってくる。「少し腹が出たな」「彼女にももう二人の子供か」と和やかなさやきが、あちらこちらから聞こえてくる。続いて、我が二十四回生のホープ、三遊亭新窓こと広岡新君の高座。たのしい時間はまたたく間に過ぎ去り、全員で当時のフォークソングを合唱した頃には、外には夕暮れが迫っていた。最後は、長い期間をかけて企画準備をし、当日は盛大な会を演出して下さった役員の皆様、ごろうさまでした。

恩師便り

\*大村 實(数学)

顧みれば、見中に勤務したのは大正の終り頃で、六十年程前の遠い昔の事でした。其の後、数校を転々して終戦後間もなく退職して郷里に帰り、食糧難と戦って子どもを育て、今日に到っております。私も八十七才を越えて人生の終着駅南山に一刻と近づきつつあります。でも残る人生を楽しみに充実した毎日を送って居りますから、御休心の程願います。

\*石坂富司(歴史)

小生、学校を出て最初の奉職校が見付中学。若さだけが取り柄のかけ出し教師でしたが、思い出は鮮烈多々。戦時中だったので、生徒もハダシ、きびしい教育だった。在京同窓会で当時の諸君との懐旧談は感無量です。

\*児玉 惇(国語)

毎日静岡通いです。袋井高校新設に関係していた頃はいやでも磐田南を意識せずにはおられませんでした。今は私立の小中高・幼稚園・専修学校・各種学校の教務、研修のお世話をしながら、磐田南でのさまざまな体験を貴重なものに思っています。このたびも西ヶ谷先生、高木先生が再びもどられて、電車が磐田駅を通るたびに改めてなつかしさを感じています。

\*小林 寛 (英語)

良き時代の良き学園に勤めたことを幸せに思い、感謝しています。

貴校は隆昌の一途を邁進しました。今日の教育振興を祝し、同窓会の益々弥栄を祈ります。

\*太田 進 (国語)

若い人達を相手に時には笑い、時に怒り、気持ちだけは昔のままのつもりですが、知らぬ間に老境に近づきつつあるといったところです。

\*柴田 和洋 (数学)

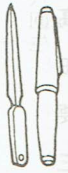
今年の二月に南高校卒十年回の同窓会に御招待いただき、落語家の岡君はじめ各界で活躍している教員に囲まれ、とても楽しい一日でした。私の在職中は、理科科新設、陸上部インターハイ優勝、創立五十周年などで大変思い出深いです。これも同窓生の皆様、諸先生方のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。南高の益々の御発展を祈念します。

\*桑原直躬 (社会)

木造の旧校舎時代に勤務しました。それも教員生活最初の学校でしたので、思い出の多い学校です。

\*友田 好 (英語)

戦中戦後にかけての母校勤務から三十年にもなりますが、幸い達者で農業をやっています。窮乏のどん底にあっても、よく勉強を続けた当時の生徒諸君に栄光あれとただ祈るばかりです。



学校だより  
部活動の状況

陸上部

- ・東海大会
・山下徹也 百m5位
・鈴木勝士 円盤投げ出場
・下村倫久 三千m7位
・山崎好夫 三千mSSC4位
・バレー部(男子)
・県大会
・一回戦 磐田南2-1藤枝東
・二回戦 磐田南2-0韭山
・準々決勝 磐田南0-2浜西

サッカー部

- ・県大会
・一回戦磐田南3-0御殿場南
・二回戦磐田南0-4東海大一
・山岳部
・インターハイ予選28校中11位
・バドミントン部
・県大会団体戦

57・58年度合格者数と進路別人数

Table with columns for university names, years (57, 58), and student counts. Includes sub-tables for private and public universities.

事務局だより

○会務報告

昭和五十八年八月、五十九年七月の年です。三月以来各年次の評議員の方々にご足労をおかけしています。が、年末までには発行郵送の予定です。名簿は正確さが大切です。是非会員の皆様にも住所不明の方おわかりでしたら、年次委員または学校の事務局までお知らせ下さい。

○今年度の当番年次

卒業10年次 高25回 新役員選出
20年次 高15回 総会当番
30年次 高6回 慰霊祭
40年次 中17回 資金作り
50年次 中9回 記念植樹

○今年度の重点

昭和五十八年八月、五十九年七月
8月21日 同窓会総会 慰霊祭
10月22日 創立60周年・はぐま会館落成記念式典・60周年記念誌発行
11月5日 関東支部総会・会長校長池谷出席
12月8日 評議員会
2月18日 同窓会役員・評議員懇親会
3月31日 評議員会・名簿発行につき

○今年度の重点

7月17日 会計監査
7月20日 評議員会

●編集後記

第五号をお届けします。編集にあたって、池谷幸平先生に御尽力いただきましたことをまず感謝申し上げます。今年新装なったブルと、表紙に載せました六十年前の様子を較べますと、周囲の状況から生徒の様子まで隔世の感を覚えます。時代は移っても見魂は今も生徒の中に生きており、部活動にも進学状況にもよい成績を修めております。

続刊の紙面を飾る「思い出の写真」や皆様方の近況などを是非事務局までお寄せ下さいませ。では皆様方ますますの御活躍をお祈り申し上げます。

